（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　ぷりも			
○保護者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　3月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	45	（回答者数）	33
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　3月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　4月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	管理者、児童発達支援管理責任者、専門職、従業員同士がしっかりと対話ができ、問題解決につなげるチームワーク力がある	話しやすい雰囲気づくりを心がけている 常に児童について話し合う機会を作っている	日頃から管理者や専門職も含め意見交換を大切にし、 新しい職員も発言できる場や雰囲気や環境を作る
2	日々の支援プログラムが充実しており、固定化されたものがない・偏りも少ない	プログラムを月単位で事前に組み、曜日で固定化されないようにしたり偏りがないようにしている	さらに新しいプログラムの考案 勉強会などの開催や参加により療育の知識を得る
3	保護者様が相談しやすい環境を作ったり、 場を設定している	定期的な保護者会の設定や毎月相談日を設け、 保護者へ周知している	保護者会などの時間を作って参加するものだけではなく、 普段の送り迎えの際の引継ぎの中で日頃の悩みや相談を 引き出したり、相談しやすい雰囲気を作る

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療関係や併用先などとの関りが少なく、連携が弱い	関りを持っている機関の少なさ こちら側からのアプローチの少なさ	併用先との情報共有を密にし、結びつきを強くすることにより多方面からの支援を手厚くする
2	新しい職員も多く、子どもへの関りやその他の仕事に職員のスキルに差がある	新しい職員も多く、教育が行き届いていない 役割分担の偏りがある	仕事の役割を平等にし、自発性を重んじた体制づくりを心掛ける 研修や教育の見直しを行う
3	事業所スペースの狭さにより活動の制限が感じられる	ビル内に設置してあるスペースの活用不足 活動内容の検討不足	ビル内のスペースや近くの公園の有効活用 プログラムの見直し